

第2章 高齢者を取り巻く状況

1 人口の動向

(1) 人口の推移

本市の総人口は、平成26年4月1日現在159,053人となっており、10年間で4,703人、5年間で1,435人増えています。

少子高齢化の進展に伴い、本市においても65歳以上の高齢者は増加傾向にあり、市の高齢化率は、国(24.1%:平成24年総務省「人口推計」)や茨城県(23.8%:平成24年総務省「人口推計」)に比べると低いものの、この3年間で平成23年の20.2%から平成26年の22.4%と2.2ポイント上昇し、65歳以上人口も3,541人増えています。

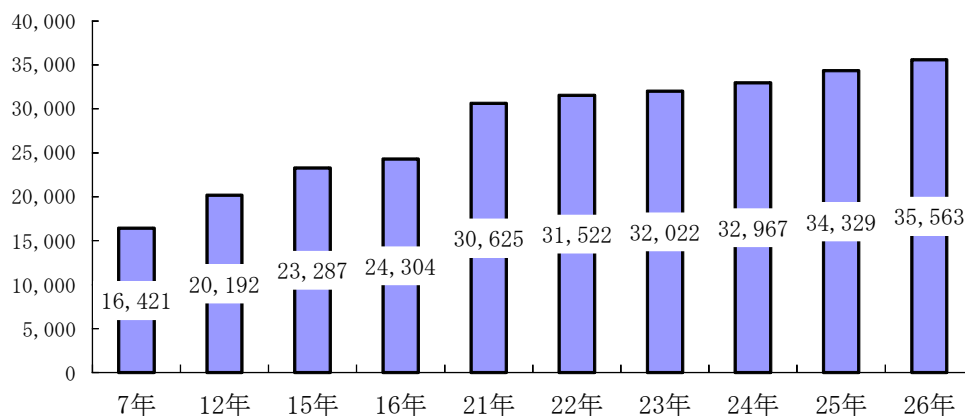
(表2-1) 人口の推移

区分	総人口	65歳以上	75歳以上
平成7年	147,146人	16,421人(11.2%)	6,288人(4.3%)
平成12年	152,534人	20,192人(13.2%)	8,036人(5.3%)
平成15年	153,783人	23,287人(15.1%)	9,424人(6.1%)
平成16年	154,350人	24,304人(15.8%)	9,897人(6.4%)
平成21年	157,618人	30,625人(19.4%)	12,588人(8.0%)
平成22年	158,393人	31,522人(19.9%)	13,163人(8.3%)
平成23年	158,414人	32,022人(20.2%)	13,823人(8.7%)
平成24年	158,224人	32,967人(20.8%)	14,440人(9.1%)
平成25年	159,576人	34,329人(21.5%)	15,264人(9.6%)
平成26年	159,053人	35,563人(22.4%)	15,873人(10.0%)

※ 各年4月1日現在の住民基本台帳の人口

※ 「75歳以上人口」は、「65歳以上人口」の内数

(グラフ 2-1) 高齢者 (65 歳以上) の人口推移 (単位 : 人)



※ 各年 4 月 1 日現在の住民基本台帳の人口

(表 2-2) 平成 26 年 4 月 1 日現在の年齢別人口 (単位 : 人)

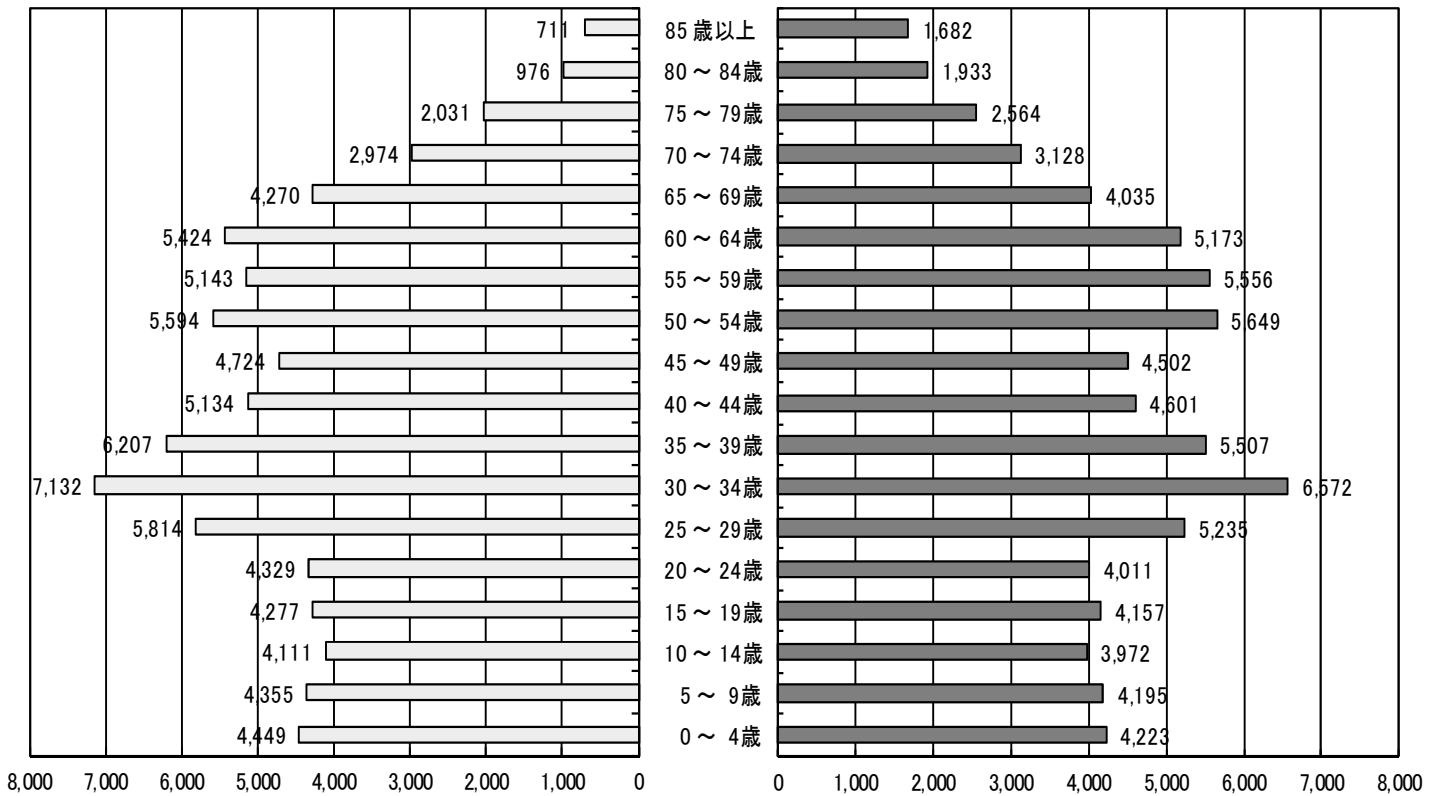
区 分	男	女	計 (A)	総人口に占める割合 (%)
65 歳 ~ 69 歳	4,715	5,350	10,065	(A) / (B) 6.3
70 ~ 74	4,727	4,898	9,625	6.1
75 ~ 79	3,420	3,652	7,072	4.4
80 ~ 84	1,983	2,633	4,616	2.9
85 ~ 89	940	1,744	2,684	1.7
90 歳以上	347	1,154	1,501	0.9
計	16,132	19,431	35,563	22.4
総人口	79,746	79,307	(B) 159,053	—

(グラフ 2-2)

平成 16 年の人口構成 (単位 : 人)

男 77,655 人

女 76,695 人

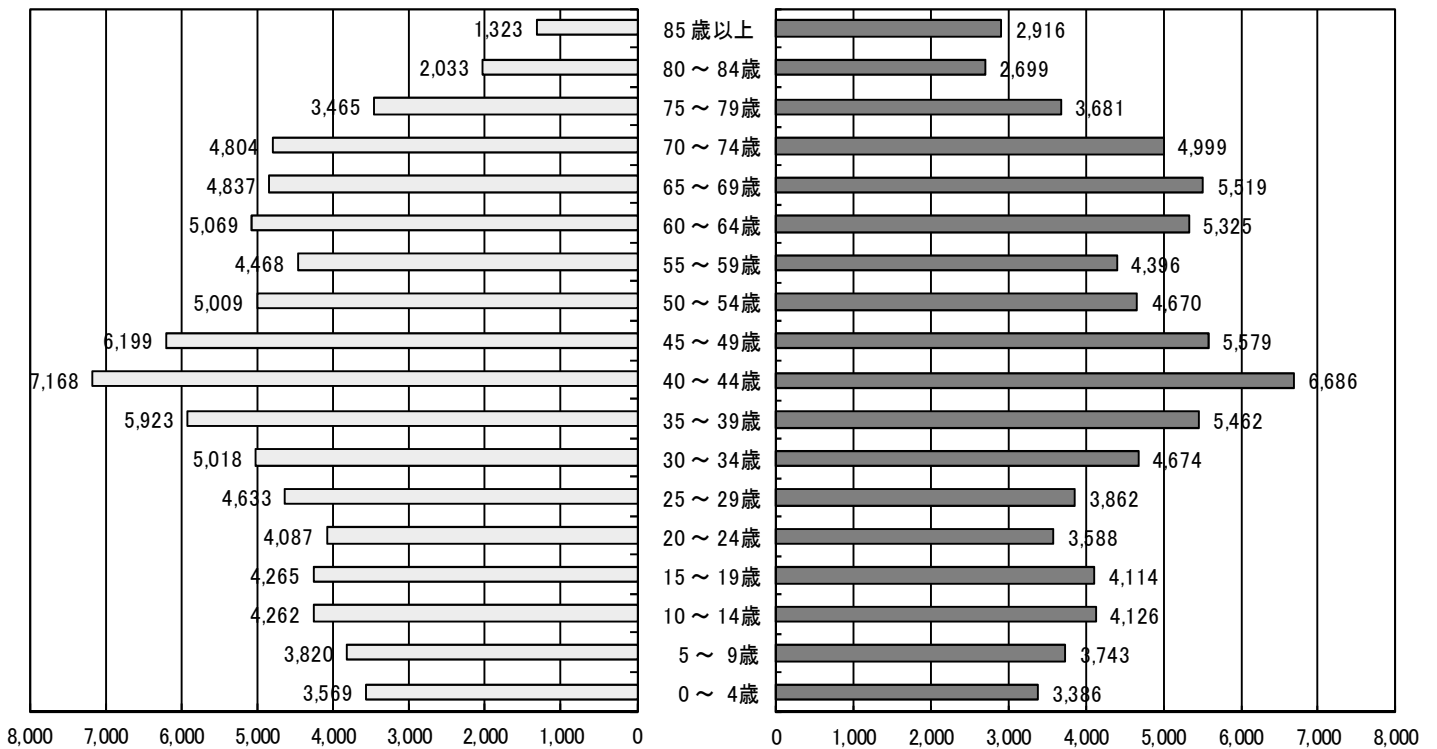


(グラフ 2-3)

平成 26 年の人口構成 (単位 : 人)

男 79,952 人

女 79,425 人



(2) 人口の推計

我が国の人口は、緩やかに減少する一方で、高齢者人口（65歳以上）は世界に類を見ない速さで増加し、平成37年（2025年）には、人口の3人に1人以上が65歳以上、5人に1人が75歳以上になると予測されています。

茨城県では、平成26年10月1日現在、総人口は292.1万人、高齢者人口は75.0万人、高齢化率は25.8%となっておりますが、国立社会保障・人口問題研究所の平成25年3月推計によると、平成37年（2025年）の総人口は276.4万人、高齢者人口は86.2万人、高齢化率は31.2%と推計されています。

こうした中、本市の今後3年間（平成27年～29年）の人口推計では、総人口は少しずつ減少すると見込まれ、40歳未満の人口が減少する一方で、65歳以上の比率は年々高くなり、平成29年には24.7%になると見込んでいます。

介護保険被保険者数の推計では、平成24年と平成29年を比較すると、第2号被保険者（40歳以上65歳未満）数は、ほぼ横ばいに推移しますが、第1号被保険者（65歳以上）数は16.3ポイント増加すると予測しています。

(表 2-3) 市の人口及び介護保険被保険者数の推移と推計（単位：人）

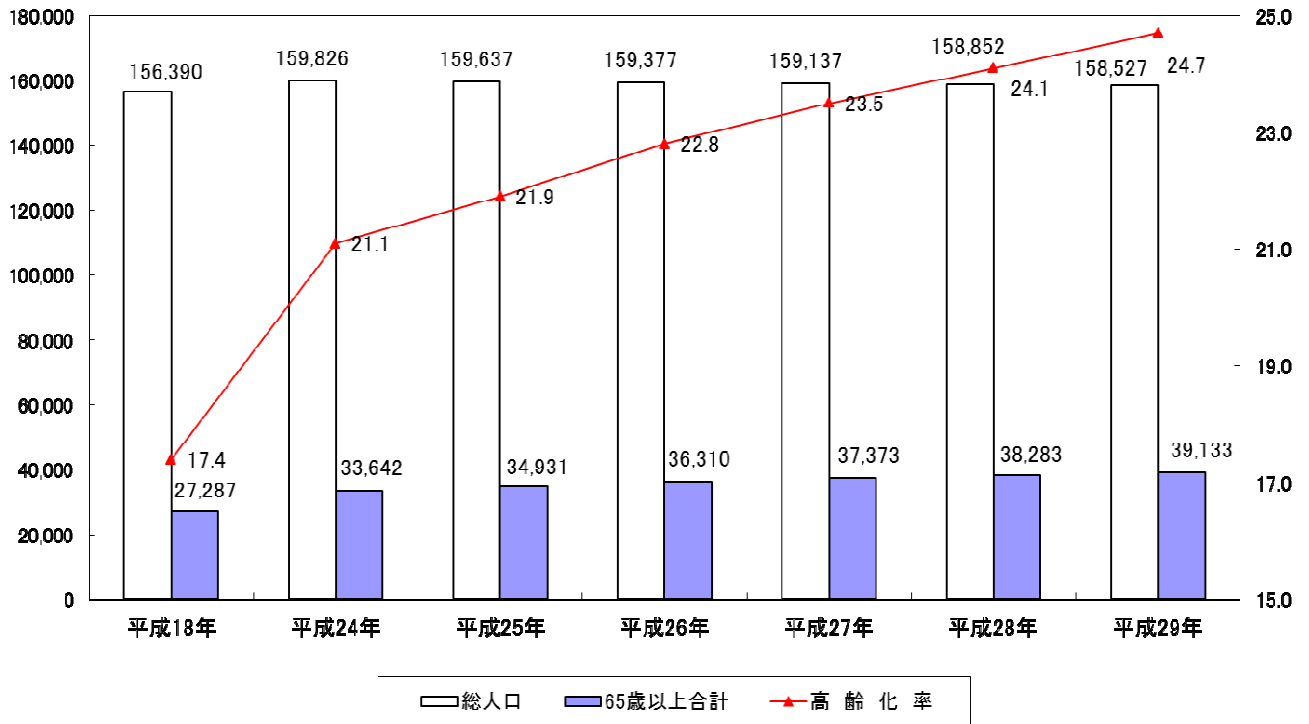
区 分		平成18年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
総人口		156,390	159,826	159,637	159,377	159,137	158,852	158,527
40歳未満		77,828	71,763	70,076	68,498	67,151	65,984	64,881
40歳以上合計		78,562	88,110	89,561	90,879	91,986	92,868	93,646
内 訳	第2号被保険者 40～64歳	51,275	54,468	54,630	54,569	54,613	54,585	54,513
	第1号被保険者 65歳以上合計	27,287	33,642	34,931	36,310	37,373	38,283	39,133
	75歳以上 (後期高齢者)	11,087	14,822	15,563	16,147	16,780	17,676	18,535

区 分		平成32年	平成37年
総人口		157,202	154,127
40歳未満		61,661	57,132
40歳以上合計		95,541	96,995
内 訳	第2号被保険者 40～64歳	55,055	55,084
	第1号被保険者 65歳以上合計	40,486	41,911
	75歳以上 (後期高齢者)	20,584	24,615

※ 各年10月1日現在の住民基本台帳の人口。平成27年以降は、平成26年10月1日住民基本台帳を基準に推計。介護保険制度は、被保険者の保険料等で運営され、被保険者の特定は住民基本台帳をもとにしていることから、住民基本台帳を基準に人口推計を行っています。

(グラフ 2-4)

人口の推移 (単位: 人・%)



2 高齢者の状況

(1) 高齢者の世帯と住居状況

本市の高齢者のいる世帯数は増加傾向にあり，平成22年国勢調査では20,882世帯で，平成17年10月の調査と比較して3,465世帯（世帯構成比：3.7ポイント増），平成12年10月から10年間で6,770世帯（世帯構成比：8.2ポイント増）増加しています。

高齢者のいる世帯の住居の状況は，本市においては持ち家率が88.8%と高いものの，前回調査よりわずかながら減少しています。

(表 2-4) 世帯状況の推移 (単位：世帯)

区 分		平成12年		平成17年		平成22年	
		世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比
総世帯数		53,476	100.0%	56,319	100.0%	60,268	100.0%
高齢者のいる世帯数計		14,112	26.4%	17,417	30.9%	20,882	34.6%
内 訳	ひとり暮らし世帯数	2,038	3.8%	2,813	5.0%	3,739	6.2%
	夫婦のみ世帯数	3,871	7.2%	5,401	9.6%	6,830	11.3%
	その他の世帯数	8,203	15.4%	9,203	16.3%	10,313	17.1%

資料：国勢調査

(表 2-5) 高齢者のいる世帯の住居状況の推移 (単位：世帯)

区 分		平成12年		平成17年		平成22年	
		世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比
高齢者のいる世帯数計		14,112	100.0%	17,417	100.0%	20,882	100.0%
持ち家		12,770	90.5%	15,742	90.4%	18,547	88.8%
借家		1,342	9.5%	1,675	9.6%	2,335	11.2%
内 訳	公営・公団・公社	414	2.9%	585	3.4%	732	3.5%
	民 営	756	5.4%	958	5.5%	1,318	6.3%
	給与住宅(社宅)	53	0.4%	25	0.1%	35	0.2%
	間 借 り	101	0.7%	97	0.6%	239	1.1%
	そ の 他	18	0.1%	10	0.1%	11	0.1%

資料：国勢調査

(2) 高齢者の就労状況

本市の高齢者の就労状況をみると平成22年の国勢調査結果では、65歳以上の労働人口は5,999人（就業率：18.9%）となっています。しかしながら、平成7年以降の調査結果をみると65歳以上労働人口は増加しているものの高齢者就業率は減少傾向にあります。

(表 2-6) 就労状況（単位：人）

区 分	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
総人口	146,750	151,673	153,639	157,060
高齢者人口（A）	16,543	20,326	25,739	31,744
15歳以上労働人口	75,639	75,888	73,067	78,032
65歳以上労働人口 （B）	3,928	4,250	5,164	5,999
高 齢 者 就 業 率 （B）／（A）	23.7%	20.9%	20.1%	18.9%

資料：国勢調査

3 日常生活圏域ニーズ調査結果の概要

(1) 日常生活圏域ニーズ調査の概要

日常生活圏域ニーズ調査は、主に生活機能の面から高齢者の生活状況、圏域間の状況等を把握し、介護（予防）サービスをはじめとする各種サービスの提供等の参考とするものです。

なお、この調査の集計にあたっては、国が作成した日常生活圏域ニーズ調査生活支援ソフトによりまとめました。

【調査対象】	平成26年4月1日現在65歳以上の方全員 (要介護3以上の認定者は除く)
【対象者数】	33,503人 (内訳) 一般高齢者 29,906人 要支援認定者 1,586人 要介護認定者 2,011人
【調査方法】	郵送発送・郵送回収法
【調査期間】	平成26年5月～平成26年7月
【有効回収数】	23,593人(回収率 70.4%) (内訳) 一般高齢者 21,375人(回収率 71.5%) 要支援認定者 1,094人(回収率 69.0%) 要介護認定者 1,124人(回収率 55.9%)
【調査内容】	厚生労働省の調査様式をもとに、一部本市の独自項目を加え、下記の内容で調査しました。(詳細は参考資料・データに掲載) ① あなたのご家族や生活状況について ② 運動・閉じこもりについて ③ 転倒について ④ 口腔・栄養について ⑤ 物忘れについて ⑥ 日常生活について ⑦ 社会参加について ⑧ 健康について ⑨ 施設や住まいについて

(2) 回答者の概要

①回答者の性別 (表 2-7)

項目	男性	女性	合計
回答者数 (人)	10,892	12,701	23,593
構成比 (%)	46.2	53.8	100.0

②年齢構成 (表 2-8)

項目	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	合計
回答者数 (人)	6,670	6,861	5,061	2,982	1,480	539	23,593
構成比 (%)	28.3	29.1	21.4	12.6	6.3	2.3	100.0

③認定状況等の構成 (表 2-9)

項目	一次予防 事業対象者	二次予防 事業対象者	要支援 認定者	要介護 認定者	合計
回答者数 (人)	15,870	5,505	1,094	1,124	23,593
構成比 (%)	67.3	23.3	4.6	4.8	100.0

④回答者が居住する日常生活圏域 (表 2-10)

項目	勝田第一 中学校区域	勝田第二 中学校区域	勝田第三 中学校区域	佐野 中学校区域	大島 中学校区域
回答者数 (人)	4,291	4,125	2,599	3,146	2,497
構成比 (%)	18.2	17.5	11.0	13.3	10.6
項目	田彦 中学校区域	那珂湊 中学校区域	平磯中・阿字ヶ 浦中学校区域	合計	
回答者数 (人)	1,948	3,405	1,582	23,593	
構成比 (%)	8.3	14.4	6.7	100.0	

(3) 日常生活圏域別の回収率及び回答者の性別等の構成比

(表 2-11)

項目		勝田第一 中学校区域	勝田第二 中学校区域	勝田第三 中学校区域	佐野 中学校区域	大島 中学校区域	田彦 中学校区域	那珂湊 中学校区域	平磯中学校・ 阿字ヶ浦中学校区域			
									平磯 中学校区	阿字ヶ浦 中学校区		
調査対象者数(人)		6,006	5,598	3,646	4,397	3,387	2,707	5,138	2,003	621		
回答者数(人)		4,291	4,125	2,599	3,146	2,497	1,948	3,405	1,239	343		
回答率		71.4%	73.7%	71.3%	71.5%	73.7%	72.0%	66.3%	61.9%	55.2%		
回答者の内訳及び構成比	性別	男性	回答者数	1,995	1,872	1,235	1,483	1,198	924	1,475	554	156
			構成比	46.5%	45.4%	47.5%	47.1%	48.0%	47.4%	43.3%	44.7%	45.5%
	女性	回答者数	2,296	2,253	1,364	1,663	1,299	1,024	1,930	685	187	
		構成比	53.5%	54.6%	52.5%	52.9%	52.0%	52.6%	56.7%	55.3%	54.5%	
	年齢別	65～69歳	回答者数	1,260	1,022	857	848	791	647	863	298	84
			構成比	29.4%	24.8%	33.0%	27.0%	31.7%	33.2%	25.3%	24.1%	24.5%
		70～74歳	回答者数	1,180	1,253	869	957	765	601	859	301	76
			構成比	27.5%	30.4%	33.4%	30.4%	30.6%	30.9%	25.2%	24.3%	22.2%
		75～79歳	回答者数	945	964	460	727	500	363	758	263	81
			構成比	22.0%	23.4%	17.7%	23.1%	20.0%	18.6%	22.3%	21.2%	23.6%
		80～84歳	回答者数	531	553	249	386	241	191	527	253	51
			構成比	12.4%	13.4%	9.6%	12.3%	9.7%	9.8%	15.5%	20.4%	14.9%
		85～89歳	回答者数	271	248	116	168	138	102	308	91	38
			構成比	6.3%	6.0%	4.5%	5.3%	5.5%	5.2%	9.0%	7.3%	11.1%
		90歳以上	回答者数	104	85	48	60	62	44	90	33	13
			構成比	2.4%	2.1%	1.8%	1.9%	2.5%	2.3%	2.6%	2.7%	3.8%
	認定状況別	一般高齢者	回答者数	3,882	3,744	2,405	2,871	2,272	1,787	3,010	1,106	298
			構成比	90.5%	90.8%	92.5%	91.3%	91.0%	91.7%	88.4%	89.3%	86.9%
要支援認定者		回答者数	216	193	93	125	112	61	200	72	22	
		構成比	5.0%	4.7%	3.6%	4.0%	4.5%	3.1%	5.9%	5.8%	6.4%	
要介護認定者		回答者数	193	188	101	150	113	100	195	61	23	
		構成比	4.5%	4.6%	3.9%	4.8%	4.5%	5.1%	5.7%	4.9%	6.7%	

(4) 調査結果

① あなたのご家族や生活状況について

家族構成については、全体で「家族など同居」が85.2%を占め、「一人暮らし」が12.1%となっています。「一人暮らし」の割合をみると、年齢別では「80歳～84歳」と「85歳～89歳」、中学校区別では「勝田第一中学校区」と「那珂湊中学校区」、認定別では「要支援認定者」の割合が高くなっています。

また、同居人の数（自分も含めて）では、2人が49.0%、3人が21.2%、4人が9.1%、5人以上が13.1%、無回答が7.6%となっています。

(表 2-12)



(表 2-13)

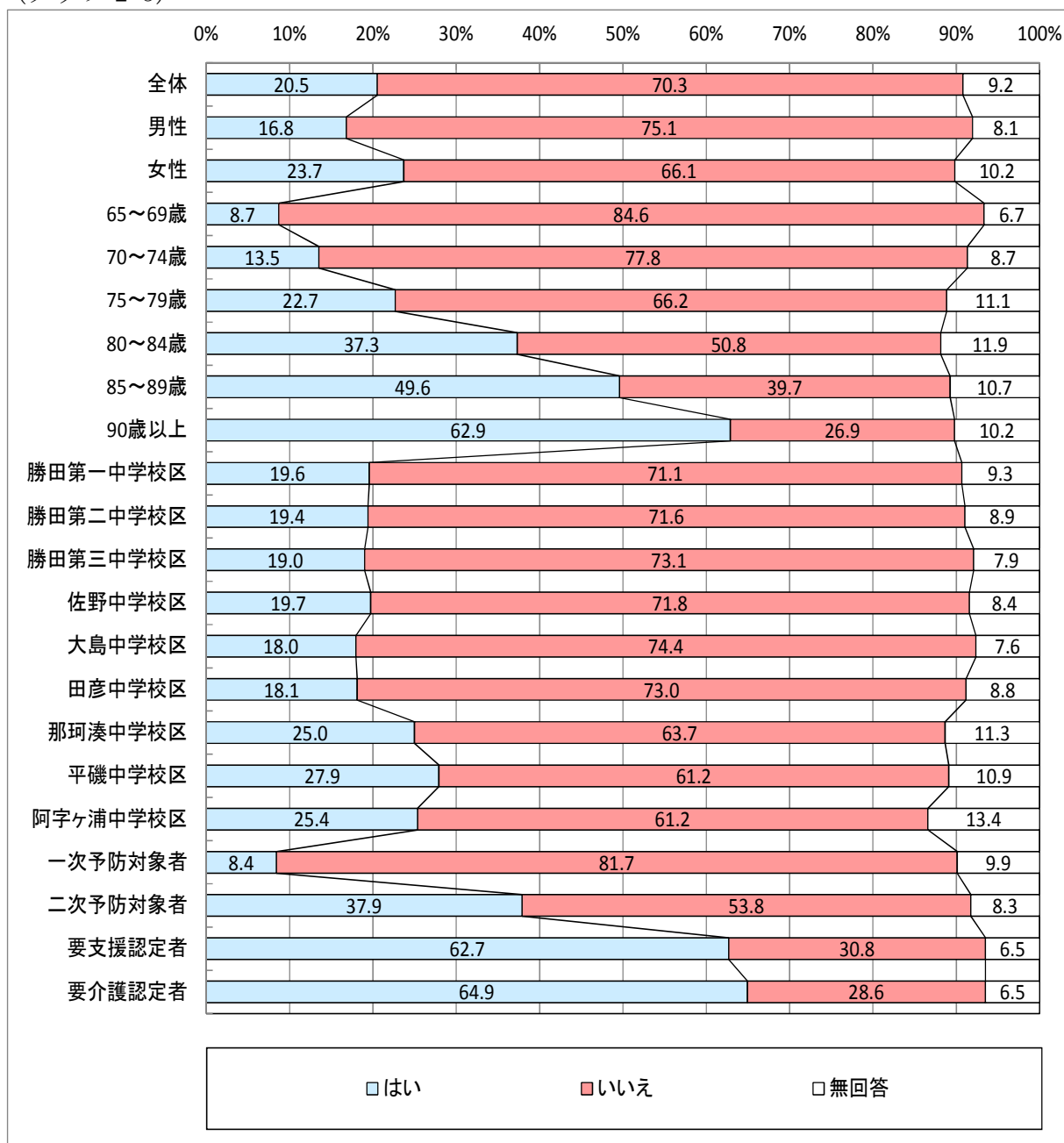
区 分	単位	家族構成					家族の人数						
		一人暮らし	家族など同居	その他	無回答	回答者数	2人	3人	4人	5人以上	無回答	回答者数	
全体	実数	人	2,853	20,098	252	390	23,593	9,846	4,259	1,826	2,634	1,533	20,098
	構成比	%	12.1	85.2	1.1	1.7	100.0	49.0	21.2	9.1	13.1	7.6	100.0
1. 勝田第一中学校区	実数	人	565	3,594	41	91	4,291	1,850	775	301	407	261	3,594
	構成比	%	13.2	83.8	1.0	2.1	100.0	51.5	21.6	8.4	11.3	7.3	100.0
2. 勝田第二中学校区	実数	人	487	3,537	31	70	4,125	1,814	695	290	443	295	3,537
	構成比	%	11.8	85.7	0.8	1.7	100.0	51.3	19.6	8.2	12.5	8.3	100.0
3. 勝田第三中学校区	実数	人	313	2,223	18	45	2,599	1,134	452	210	302	125	2,223
	構成比	%	12.0	85.5	0.7	1.7	100.0	51.0	20.3	9.4	13.6	5.6	100.0
4. 佐野中学校区	実数	人	340	2,726	31	49	3,146	1,232	561	255	449	229	2,726
	構成比	%	10.8	86.6	1.0	1.6	100.0	45.2	20.6	9.4	16.5	8.4	100.0
5. 大島中学校区	実数	人	301	2,149	26	21	2,497	1,073	496	197	244	139	2,149
	構成比	%	12.1	86.1	1.0	0.8	100.0	49.9	23.1	9.2	11.4	6.5	100.0
6. 田彦中学校区	実数	人	195	1,711	25	17	1,948	858	369	134	210	140	1,711
	構成比	%	10.0	87.8	1.3	0.9	100.0	50.1	21.6	7.8	12.3	8.2	100.0
7. 那珂湊中学校区	実数	人	466	2,820	62	57	3,405	1,304	613	291	373	239	2,820
	構成比	%	13.7	82.8	1.8	1.7	100.0	46.2	21.7	10.3	13.2	8.5	100.0
8. 平磯中学校区	実数	人	152	1,047	12	28	1,239	482	234	114	134	83	1,047
	構成比	%	12.3	84.5	1.0	2.3	100.0	46.0	22.3	10.9	12.8	7.9	100.0
9. 阿字ヶ浦中学校区	実数	人	34	291	6	12	343	99	64	34	72	22	291
	構成比	%	9.9	84.8	1.7	3.5	100.0	34.0	22.0	11.7	24.7	7.6	100.0

② 閉じこもりについて

外出を控えているかについては、全体では「はい」が 20.5%となっていますが、「90 歳以上」では 62.9%が外出を控えており、中学校区別では「那珂湊中学校区」、「平磯中学校区」、「阿字ヶ浦中学校区」で 25.0%以上の高い割合となっています。

なお、外出を控える主な原因として「足腰などの痛み」が最も多く、次いで「トイレの心配（失禁など）」「耳の障害（聞こえの問題など）」となっています。

(グラフ 2-5)

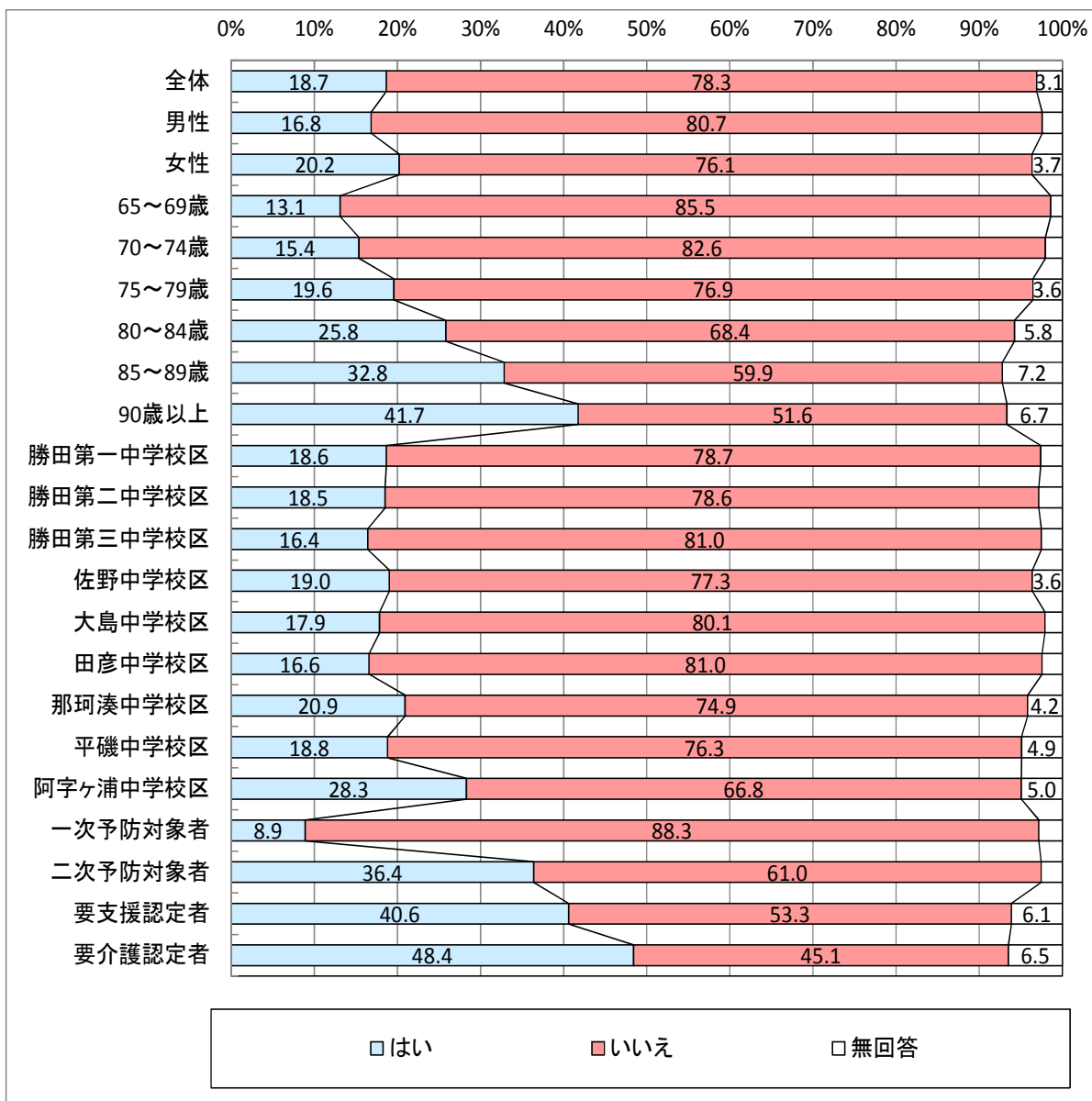


③ 転倒について

この1年間に転んだことはありますか、という設問に対し、18.7%の方が「はい」と回答しており、年齢が高くなるに従って「はい」の回答率が高くなっています。また、女性の「はい」の回答率が男性を上回っています。

転倒に対する不安などの設問においても年齢が高くなるほど「はい」の回答が増加し、女性の「はい」の回答率が高く、女性のほうが転倒のリスクが高いと判断されます。

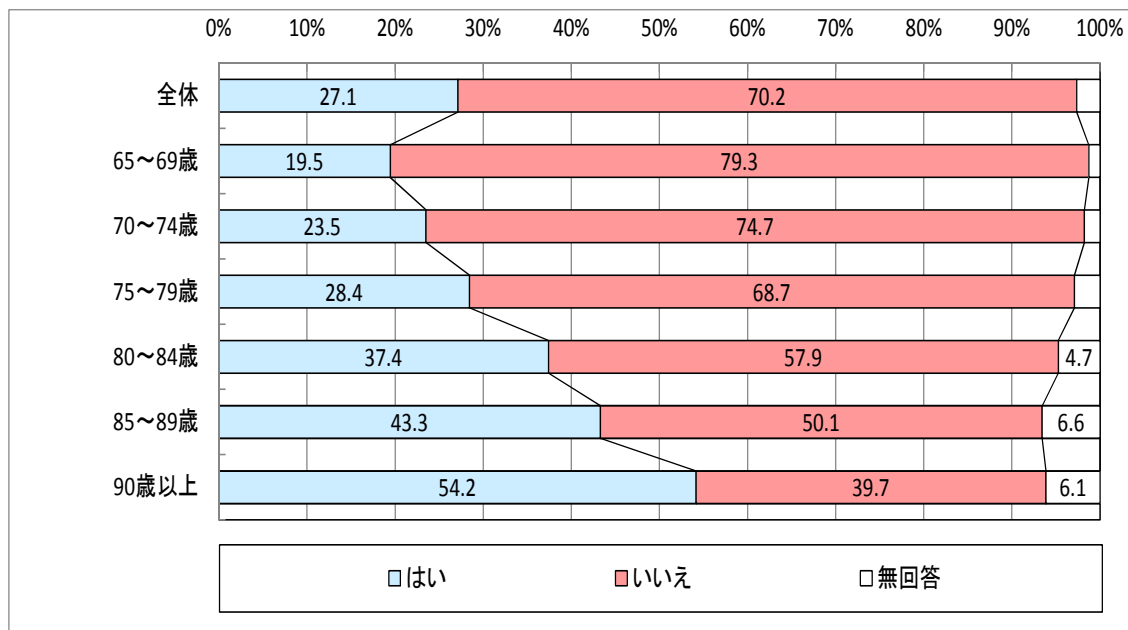
(グラフ 2-6)



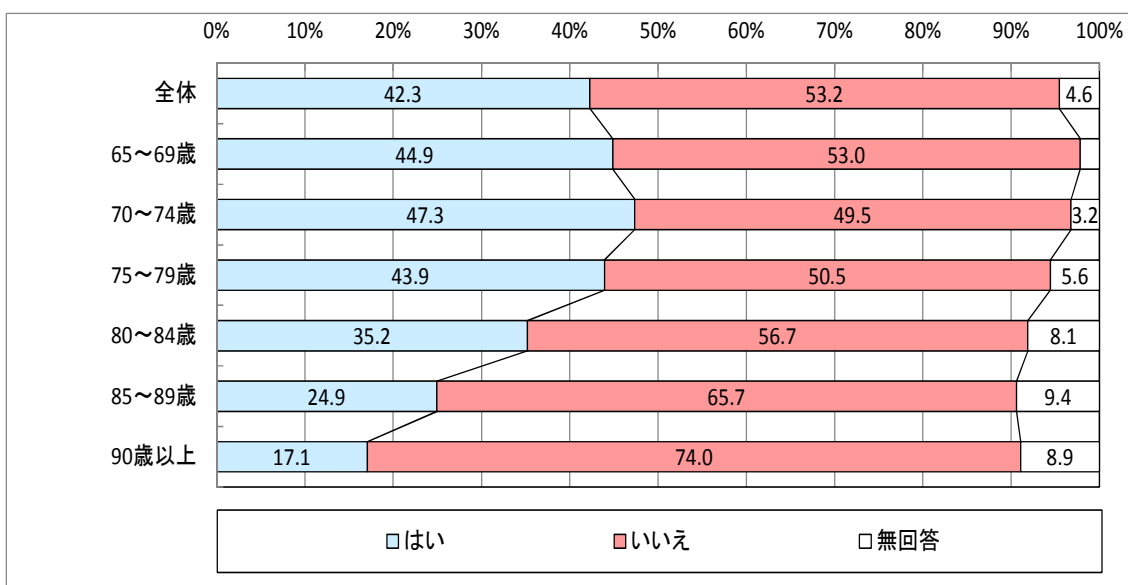
④ 口腔について

口腔について、半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか、という設問と、定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか、という設問に対して、年齢が高くなるほど、食べにくくなったという回答が増加し、歯科受診率が下がる傾向があります。

(グラフ 2-7) 「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」



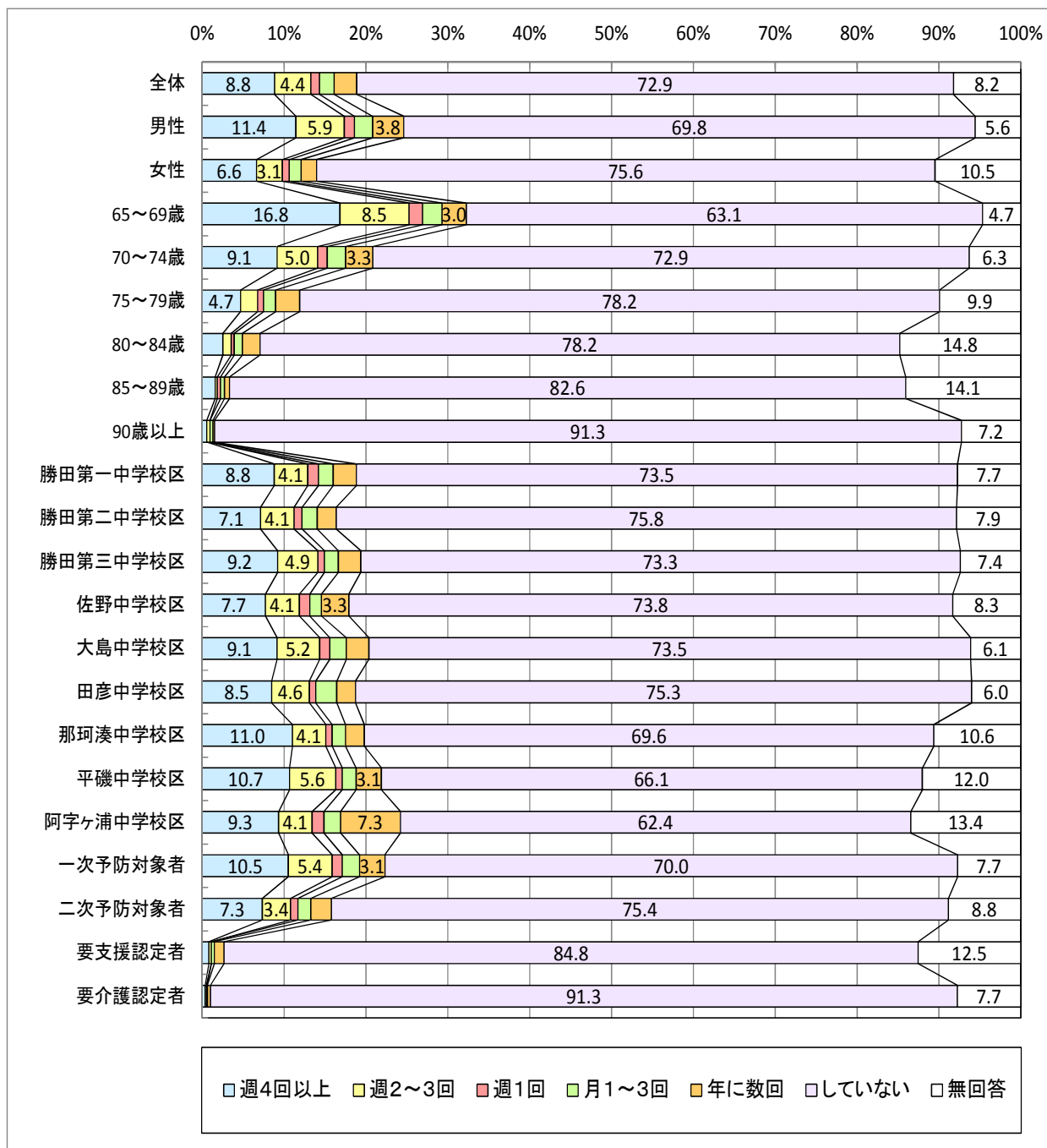
(グラフ 2-8) 「定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか」



⑤ 収入のある仕事について

収入のある仕事について、全体では「週4回以上」と「週2～3回」の合計が13.2%となっています。性別で見ると、「女性」より「男性」のほうが仕事をしている割合が高く、また、年齢別では、年齢が高くなるほど仕事をしている割合が低くなっています。中学校区別では、「週4回以上」と「週2～3回」の合計が「平磯中学校区」で最も高く、次いで「那珂湊中学校区」、「大島中学校区」と続きます。

(グラフ 2-9)



⑥ 相談等について

家族や友人・知人以外で、何かあった時に相談する相手をおしえてください、という設問に対して、「そのような人はいない」と答えた方は 8,698 名 (36.9%) となっています。

また、相談相手では「医師・歯科医師・看護師」が 24.0%と最も多く、「自治会・町内会・高齢者クラブ」は 11.3%であり、「おとしより相談センター（地域包括支援センター）・市役所」と答えた方は 7.7%と低い割合でした。

(表 2-14) 高齢者の相談相手の状況

区 分	回答数(人)	割合 (%)
自治会・町内会・高齢者クラブ	2,658	11.3
社会福祉協議会・民生委員	2,909	12.3
ケアマネジャー	1,429	6.1
医師・歯科医師・看護師	5,656	24.0
お年寄り相談センター（地域包括支援センター）・市役所	1,824	7.7
その他	1,643	7.0
そのような人はいない	8,698	36.9

※重複回答

⑦ 健康について

a 健康感

主観的健康感については、「とても健康，まあまあ健康」と回答した方が全体の73.9%と、治療中の疾病はある方でも自身の健康に対しては比較的よい評価をしています。なお、年齢が高くなるほど健康という意識は低くなり、90歳以上では「とても健康，まあまあ健康」の割合は51.9%と低くなっています。

b 疾病の状況

治療中，または後遺症のある疾病の状況についての回答は，次のとおりです。

特に，長年の生活習慣が要因となって発生するといわれている疾病（高血圧，糖尿病，脂質異常等）の罹患率が高くなっているほか，目の病気や筋骨格の病気（骨粗しょう症，関節症等）も高くなっていますが，一方で「なし」と回答した方も2,797名（11.9%）います。

（表 2-15） 治療中の疾病等の状況

疾 病 名 等	回答数 (人)	割合 (%)
高血圧	9,875	41.9
脳卒中 (脳出血, 脳梗塞)	886	3.8
心臓病	2,558	10.8
糖尿病	3,034	12.9
高脂血症 (脂質異常)	2,328	9.9
呼吸器の病気 (肺炎等)	1,362	5.8
胃腸・肝臓・胆のうの病気	1,852	7.8
腎臓・前立腺の病気	1,801	7.6
筋骨格の病気 (骨粗しょう症, 関節症等)	3,298	14.0
外傷 (転倒・骨折等)	630	2.7
がん	765	3.2
血液・免疫の病気	335	1.4
うつ病	194	0.8
認知症 (アルツハイマー病等)	333	1.4
パーキンソン病	123	0.5
目の病気	4,880	20.7
耳の病気	1,339	5.7
その他	1,787	7.6
ない	2,797	11.9

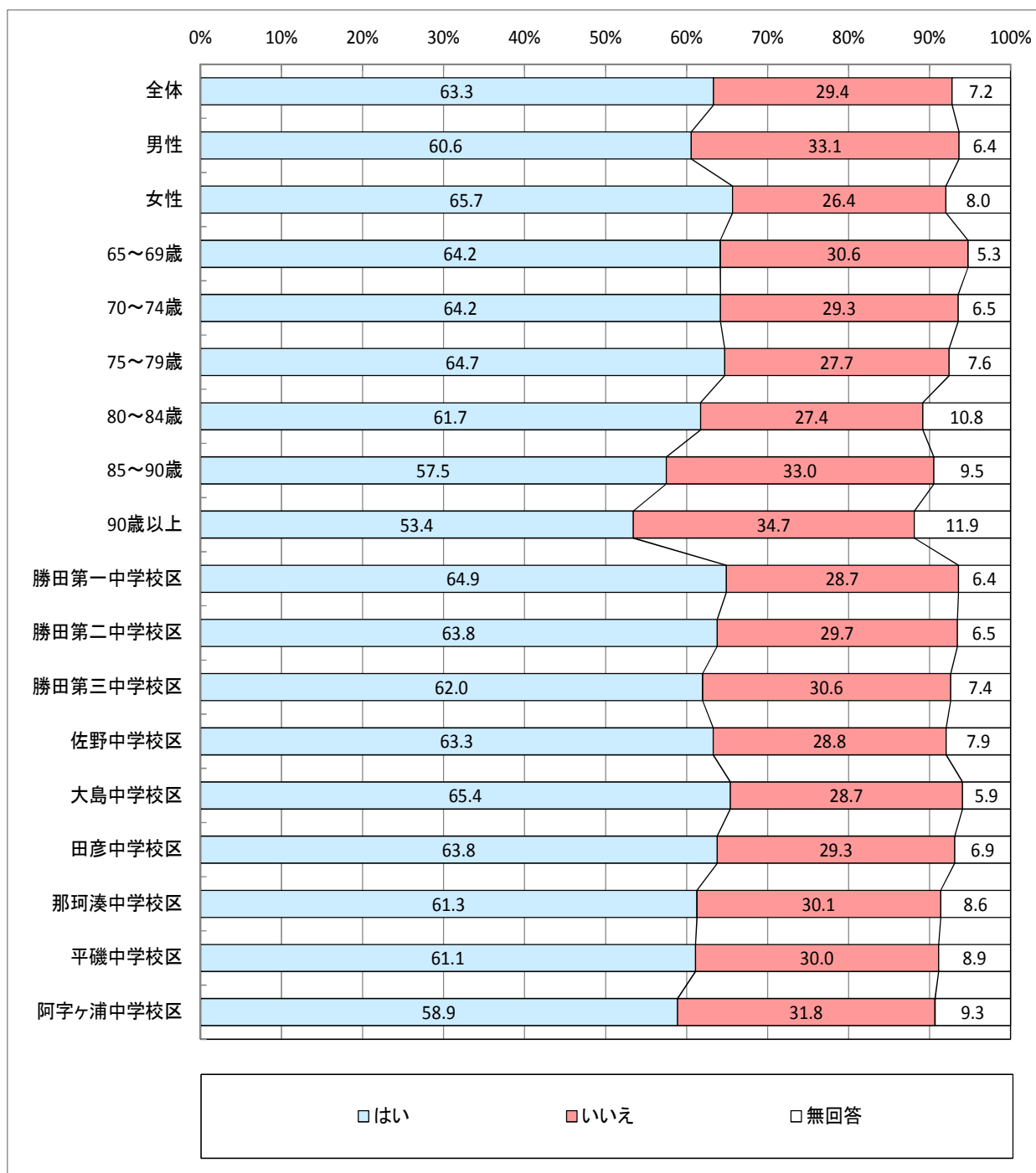
※重複回答

⑧ 施設や住まいについて

将来、介護が必要になったときに、自宅以外を希望するかについて、全体では「はい」が63.3%となっていますが、「男性」より「女性」のほうが「はい」の割合が高く、年齢が高くなるほど「はい」の割合が低くなっていく傾向にあります。

中学校区別では「大島中学校区」で「はい」の割合が最も高く、「阿字ヶ浦中学校区」で最も低くなっています。

(グラフ 2-10)



(5) 生活機能判定の結果について

今回実施した日常生活圏域ニーズ調査は、介護予防のための生活機能を評価する項目（基本チェックリスト）が配置されており、その調査項目を集計・分析することで、介護予防のための生活機能を評価し、その生活機能評価結果をもとに、二次予防事業対象者を把握することができます。

基本チェックリストの結果、運動器、栄養、口腔、虚弱のいずれかに該当した場合は、二次予防事業対象者（生活機能の低下が認められる者）と判定されます。今回の調査における日常生活圏域ごとの二次予防事業対象者として把握された人数は、表 2-16 のとおりとなっています。

「運動器の機能」の低下の認められる方の割合は、全体で 20.3% となっており、最も高い「平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域」と最も低い「田彦中学校区域」の圏域間での差は 10.7 ポイントとなっています。「口腔機能」の低下の認められる方の割合は、全体で 19.6% となっており、最も高い「平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域」と最も低い「大島中学校区域」の圏域間での差は 4.9 ポイントとなっています。「虚弱」の低下の認められる方の割合は、全体で 10.2% となっており、最も高い「平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域」と最も低い「勝田第三中学校区域」の圏域間での差は 5.1 ポイントとなっています。「認知機能」、「うつ」において注意を要する方は、全体で「認知機能」が 37.9%、「うつ」が 28.5% と全体的に高い傾向を示しております。また、「栄養」については、低下が認められる方は全体の 1.1%、「閉じこもり」に注意を要する方は全体の 6.8% と低い状況にあります。

(表 2-16) 調査から把握された日常生活圏域ごとの二次予防事業対象数等

区 分	総 数	二次予防事業対象者把握項目及び対象者数			
		運動器	栄養	口腔	虚弱
勝田第一中学校区域	1,292 (31.9%)	775 (18.9%)	52 (1.3%)	805 (19.2%)	383 (9.3%)
勝田第二中学校区域	1,230 (31.6%)	737 (18.7%)	39 (1.0%)	790 (19.7%)	385 (9.7%)
勝田第三中学校区域	753 (30.6%)	453 (18.2%)	23 (0.9%)	461 (18.2%)	218 (8.8%)
佐野中学校区域	956 (32.6%)	597 (20.0%)	38 (1.3%)	606 (19.9%)	317 (10.6%)
大島中学校区域	724 (30.7%)	453 (18.8%)	25 (1.0%)	441 (18.1%)	216 (9.0%)
田彦中学校区域	539 (29.2%)	310 (16.6%)	19 (1.0%)	353 (18.7%)	167 (8.9%)
那珂湊中学校区域	1,208 (38.6%)	822 (25.7%)	35 (1.1%)	691 (21.1%)	416 (13.0%)
平磯中学校・阿字ヶ浦 中学校区域	600 (41.6%)	402 (27.3%)	8 (0.5%)	82 (23.0%)	204 (13.9%)
計	7,302 (33.0%)	4,549 (20.3%)	239 (1.1%)	4,495 (19.6%)	2,306 (10.2%)

区 分	二次予防事業対象者把握 項目及び対象者数		
	認知機能	閉じこもり	うつ
勝田第一中学校区域	1,544 (37.2%)	247 (5.9%)	1,141 (28.0%)
勝田第二中学校区域	1,457 (36.5%)	250 (6.2%)	1,055 (27.5%)
勝田第三中学校区域	980 (38.9%)	147 (5.8%)	652 (26.9%)
佐野中学校区域	1,219 (40.1%)	231 (7.6%)	852 (29.1%)
大島中学校区域	902 (37.1%)	136 (5.6%)	614 (26.2%)
田彦中学校区域	682 (36.2%)	107 (5.7%)	455 (25.0%)
那珂湊中学校区域	1,253 (38.3%)	275 (8.4%)	1,016 (32.8%)
平磯中学校・阿字ヶ浦 中学校区域	594 (39.5%)	82 (10.3%)	467 (33.4%)
計	8,631 (37.9%)	1,548 (6.8%)	6,252 (28.5%)

(6) 老研式活動能力指標による生活機能総合評価の結果について

介護予防のための生活機能評価のほかに、本調査票には、身体機能を評価するための設問項目が配置されています。老研式活動能力指標とは、東京都健康長寿医療センター（旧東京老人総合研究所）が作成した社会的な生活機能を測る指標で、①「買物、外出、食事の準備」等の状況（IADL）、②「書類作成、新聞・読書」等の状況（知的能動性）、③「友人宅の訪問、家族等の相談にのる」等の状況（社会的役割）を基に、複雑な生活関連動作や社会的役割を担う能力等を点数化し、①～③の項目の合計により総合的に評価しています。

全体で80.7%の方は評価が高い状態にあります。また、評価が高い圏域間の差は、最も高い「勝田第二中学校区域」と最も低い「平磯中学校区・阿字ヶ浦中学校区域」では7.1ポイントの差があります。

(表 2-17) 老研式活動能力指標からみた日常生活圏域ごとの状況

区 分	総 数	高 い (11 点以上)	やや低い (9～10 点)	低 い (8 点以下)
勝田第一中学校区域	3,752	3,075 (82.0%)	377 (10.0%)	300 (8.0%)
勝田第二中学校区域	3,609	2,996 (83.0%)	319 (8.8%)	294 (8.1%)
勝田第三中学校区域	2,154	1,740 (80.8%)	220 (10.2%)	194 (9.0%)
佐野中学校区域	2,662	2,159 (81.1%)	266 (10.0%)	237 (8.9%)
大島中学校区域	2,235	1,826 (81.7%)	222 (9.9%)	187 (8.4%)
田彦中学校区域	1,738	1,417 (81.5%)	170 (9.8%)	151 (8.7%)
那珂湊中学校区域	2,860	2,200 (76.9%)	347 (12.1%)	313 (10.9%)
平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域	1,337	1,015 (75.9%)	156 (11.7%)	166 (12.4%)
計	20,347	16,428 (80.7%)	2,077 (10.2%)	1,842 (9.1%)

※設問に未回答のある方は、判定から除いています。

(7) 日常生活圏域別の特性のまとめ

今回の日常生活圏域ニーズ調査結果より、各日常生活圏域の高齢者の実態の一部についてまとめました。

① 勝田第一中学校区域

勝田第一中学校区域は、今回の調査では前期高齢者が 56.9%、後期高齢者が 43.1%と、前期高齢者の割合が上回っている中学校区域です。

家族、住まい、暮らしの状況等については、他の中学校区域に比べ、一人暮らしの割合が高い傾向にあります。

健康、介護の状況については、自分を健康（とても健康、まあまあ健康）と意識している方が多い中学校区域となっており、介護状況では、「介護・介助は必要ない」が占める割合も他の中学校区域に比べ比較的高くなっています。二次予防判定の7項目の結果や、現在、何らかの介護・介助している方の年齢でも、市の全体平均に近い値を示しています。

社会活動の参加状況については、スポーツ関係のグループやクラブ、趣味関係のグループにおいて、参加率が高い中学校区域になっています。また、友人の家を訪ねている割合も高く、1ヶ月に友人・知人と会う人数で10人以上の割合も他の中学校区域に比べ高くなっています。

これまで介護予防教室等へ参加したことがあるかについては、他の中学校区域と比べ参加率は高く、また、今後の参加意向の割合も高くなっています。

② 勝田第二中学校区域

勝田第二中学校区域は、今回の調査では前期高齢者が 55.2%、後期高齢者が 44.8%と、前期高齢者の割合が上回っている中学校区域です。

家族、住まい、暮らしの状況等については、若干、家族などと同居の割合が高くなっています。外出する際の移動手段でみると、他の中学校区域と比べ、自転車、コミュニティバスの割合が比較的高くなっています。

健康、介護の状況については、自分は健康だと意識している方の割合及び二次予防判定の7項目において、市の全体平均的な値を示しています。現在、何らかの介護・介助している方の年齢では、他の中学校区域に比べ、65歳未満の割合が最も低く、75歳以上の割合が最も高くなっています。

社会活動の参加状況については、スポーツ関係のグループやクラブ、趣味関係のグループ、老人クラブ、町内会・自治会、学習・教養サークルへの参加率が最も多い中学校区域になっています。友人を訪ねている割合は最も高く、友人・知人と会う頻度も高く、1ヶ月に10人以上の友人・知人と会う割合が高くなっています。

これまで介護予防教室等へ参加したことがあるかについては、最も参加率が高い中学校区域であり、また、今後の参加意向の割合も高くなっています。

③ 勝田第三中学校区域

勝田第三中学校区域は、今回の調査では前期高齢者が 66.4%、後期高齢者が 33.6%と、年齢層の若い高齢者が最も多い中学校区域となっています。

家族、住まい、暮らしの状況等については、若干、家族などと同居の割合が高くなっています。外出する際の移動手段でみると、他の中学校区域と比べ、徒歩、自転車の割合が比較的 low、自動車（自分で運転）の割合が高くなっています。

健康、介護の状況については、年齢層の若い高齢者が多い中学校区域であることもあり、介護・介助は必要ないと割合が、他の中学校区域と比べ最も高くなっており、二次予防判定の 7 項目において、認知機能を除き市の全体平均を下回っています。

社会活動の参加状況については、勝田第一中学校区域と勝田第二中学校区域と同様の傾向を示しています。友人の家を訪ねている割合が高く、よく会う友人・知人の関係では、近所・同じ地域の人割合が最も高くなっています。

④ 佐野中学校区域

佐野中学校区域は、今回の調査では前期高齢者が 57.4%、後期高齢者が 42.6%と、前期高齢者の割合が上回っている中学校区域です。

家族、住まい、暮らしの状況等については、家族などと同居が比較的多い中学校区域であり、同居人の数も 5 人以上の割合が阿字ヶ浦中学校区域に次いで多い中学校区域となっています。外出する際の移動手段でみると、他の中学校区域と比べ、電車の割合が高く、コミュニティバスの割合は低くなっています。

健康、介護の状況については、二次予防判定の 7 項目の結果のうち、認知機能の該当率が全体平均を上回り、中学校区域別でみると 2 番目に多い中学校区域となっています。現在、何らかの介護・介助している方の年齢では、他の中学校区域に比べ、65 歳未満の割合が高くなっています。

社会活動の参加状況については、趣味関係のグループへの参加が比較的高く、その他の参加については、市の全体平均的な値を示しています。友人関係については、勝田第三中学校区域と同様の傾向を示しています。家族や友人・知人以外で相談する相手についてみると、他の中学校区域と比べ自治会・町内会・高齢者クラブの割合が最も高くなっています。

⑤ 大島中学校区域

大島中学校区域は、今回の調査では前期高齢者が 62.3%、後期高齢者が 37.7%と、前期高齢者の割合が大きく上回っている中学校区域です。

家族、住まい、暮らしの状況等については、家族などと同居している方や、日中 1 人になる方が他の中学校区域と比べると比較的多くなっています。外出する際の移動手段でみると、他の中学校区域と比べ、徒歩、自転車、電車の割合が高くなっています。

健康、介護の状況については、自分を健康（とても健康、まあまあ健康）と意識している方が多い中学校区域となっており、二次予防判定の 7 項目の結果をみると、年齢層の若い高齢者が多いことから、すべての項目において全体平均を下回る該当率を示しています。現在、何らかの介護・介助している方の年齢では、他の中学校区域に比べ、65～74 歳の割合が最も高くなっています。

社会活動の参加状況については、若くて健康的な高齢者が多いことから、仕事をしている割合が比較的高くなっています。友人の家を訪ねている割合は、他の中学校区域と比べ若干低く、友人と会う頻度でも、低い傾向を示しており、家族や友人以外の相談相手では、そのような人はいない割合が高くなっています。

これまで介護予防教室等へ参加したことがあるかについては、比較的低い数値を示していますが、今後の参加意向については他の中学校区域と比べて最も高い値を示しています。

⑥ 田彦中学校区域

田彦中学校区域は、今回の調査では前期高齢者が 64.1%、後期高齢者が 35.9%と、勝田第三中学校区域に次いで、前期高齢者の割合が大きく上回っている中学校区域です。

家族、住まい、暮らしの状況等については、家族などと同居の割合が最も高い中学校区域となっています。外出する際の移動手段でみると、他の中学校区域と比べ、徒歩、自転車、自動車（自分で運転）の割合が高くなっています。

健康、介護の状況については、自分を健康（とても健康、まあまあ健康）と意識している方が多く、一次予防事業対象者の割合が最も高くなっています。二次予防判定の 7 項目の結果をみても、大島中学校区域と同様にすべての項目において平均を下回る該当率を示しています。現在、何らかの介護・介助している方の年齢では、他の中学校区域と比べ、75 歳以上の割合が最も低くなっています。

社会活動の参加状況については、町内会・自治会への参加、また仕事をしている割合が比較的低い中学校区域となっています。友人の家を訪ねている割合が最も低く、大島中学校区域と同様の傾向を示しています。

これまで介護予防教室等へ参加したことがあるかについては、比較的高い値を示していますが、今後の参加意向については他の中学校区域と比べて若干低い値を示しています。

⑦ 那珂湊中学校区域

那珂湊中学校区域は、今回の調査では前期高齢者が 50.6%、後期高齢者が 49.4%と、概ね同じ割合を示している中学校区域です。

家族、住まい、暮らしの状況等については、一人暮らしの割合が最も高くなっています。外出する際の移動手段でみると、他の中学校区域と比べ、自動車（自分で運転）の割合が低くなっています。

健康、介護の状況については、二次予防事業対象者も比較的多くなり、二次予防判定の7項目でみても、各項目において市の全体平均を上回る該当率を示しています。現在、何らかの介護・介助している方の年齢では、他の中学校区域に比べ、65歳未満の割合が最も高くなっています。

社会活動の参加状況については、町内会・自治会への参加は比較的多く、また、週4日以上仕事をしている方の割合が最も高い中学校区域となっています。そのため、スポーツや趣味の活動への参加は比較的低い値を示しています。友人・知人と会う頻度については、週4回以上、週2~3回の割合が高く、交流の機会が多い地域となっています。

これまで介護予防教室等へ参加したことがあるかについては、若干低い値を示しており、今後の参加意向についても若干低い値を示しています。

⑧ 平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域

平磯中学校・阿字ヶ浦中学校区域は、今回の調査では平磯中学校区で前期高齢者が 48.3%、後期高齢者が 51.7%、阿字ヶ浦中学校区で前期高齢者が 46.6%、後期高齢者が 53.4%と、後期高齢者の割合が若干上回っている中学校区域です。

家族、住まい、暮らしの状況等については、家族など同居が比較的多く、同居している人数が5人以上である割合が、阿字ヶ浦中学校区は最も高くなっています。外出する際の移動手段でみると、他の中学校区域と比べ、徒歩、自転車の割合が低く、バイク、自動車（人に乗せてもらう）の割合が比較的高くなっています。

健康、介護の状況については、二次予防事業対象者の割合が高く、二次予防判定の7項目でみると、平磯中学校区では栄養と認知機能以外の項目、阿字ヶ浦中学校区では栄養以外の項目において市の全体平均を上回る該当率を示しています。現在、何らかの介護・介助している方の年齢では、他の中学校区域に比べ、85歳以上の割合が高くなっています。

社会活動の参加状況については、比較的低い値を示していますが、収入のある仕事をしている割合が、他の中学校区域に比べ比較的高くなっています。友人・知人と1ヶ月に会う人数でみると1~2人、3~5人の割合は比較的高いが、10人以上となると他の中学校区域に比べて低い割合となっています。

これまで介護予防教室等へ参加したことがあるかについては、他の中学校区域と比べ低い値を示しています。